

Kendra Heatwole Shank & Malcolm P. Cutchin (2010)

Transactional Occupations of Older Women Aging-in-Place: Negotiating Change and Meaning

Journal of Occupational Science, 17(1), 4-13

Key Words: Aging (老化), Occupation (作業), Transaction ([個の枠を超えた] 社会交流), Meaning (意味), Lifeworld (生活世界), Place (場所)

住みなれた場所で年をとっていく高齢女性のトランザクショナル的作業 (transactional occupation) : 変化や意味に折り合いをつけること

住みなれた場所で年をとっていく (Age-in-Place) 超高齢者数の増加は、その層の人々にとっての場所 (place) ・作業 (occupation) ・幸福 (well-being) の関係について大切な問題を提起する。人や場所の変化が高齢者の作業にどう関係するのか、また、作業を通じた変化や適応が高齢者の生活世界 (lifeworld) を通じて経験する意味にどう影響するのか、という疑問について未研究なこと数多い。本論では、徹底的な (in-depth) 面接と観察を用いた複合的事例研究 (multiple case study) のアプローチで、自宅で暮らし続けているが年をとっていくことの大変さに直面している3名の超高齢女性の事例を分析した。トランザクショナル的作業 (transactional occupation) *の視点を背景に、関係・作業・意味に関する中核領域とプロセスを概念化した。分析により、「作業を通して経験する意味」と「生活世界の変化に折り合いをつけること」という二つの概念カテゴリーが明らかになった。作業を通して経験する意味の領域は、「アイデンティティの作業」「場所中心の作業活動」「社会との関係」であった。生活世界の変化に折り合いをつけることのプロセスは、「場所の統合」「作業を調整すること」「場面の意味づくり」であった。(訳: 崎山 美和)

*訳注: トランザクション (transaction) とは20世紀を代表するアメリカの哲学者、教育改革者、社会思想家であるジョン・デューイが、送り手と受け手が相互に変更を加えていく交流過程を、あらかじめ互いに独立した個人と個人の交流 (interaction) と区別するために用いた言葉。著者らは、作業は、人と場所の関係性・連続性・即興性・本質的に備わった統合性の中心にあるとし、作業を理解するためにはトランザクションという視点が有効であると考えている。訳においては transactional occupation をトランザクショナル的作業とした。

Translated by Miwa Sakiyama, M. Sc., OTR
Rihabili-Kikaku, L. L. C., Tokyo, Japan

Etsuko Odawara (2009).

Occupations for Resolving Life Crises in Old Age

Journal of Occupational Science, Vol.17(1), 14-19.

Key Words: Life stage transition(ライフステージ 移行), Rites of passage(通過儀礼), Older adults(高齢者), Collective occupations(集団的作業)

高齢期のライフクライシスを解決するための作業

人は人生の出来事を経験するうちに危機に遭遇する。高齢期には、生涯かけて作られた作業パターンを破壊するような危機に見舞われる可能性がある。そのような危機とその解決は、ヴァン・ゲネップが論じた通過儀礼の各段階：分離，移行，再統合と対応して考えることができるだろう（1908/1960）。私はライフクライシスを解決するための作業の使用と，通過儀礼の各段階の過程を対応させて論じる。私はある日本人の脳卒中後遺症の高齢者と，脳卒中の結果おこったライフクライシスを解決するために介入した作業療法士を含む周囲の人々の生活経験を研究する目的でエスノグラフィーの方法を用いた。その過程には，老婦人の現在の経験を以前の人生に繋ぐ作業を利用した学習，集団的作業（collective occupations）*，スポンサー役割が見られた。それらの作業は老婦人の過去を将来に橋渡し，彼女が人生へ順応するように促し，時間的適応を推し進めた。それらの作業には作業従事を促すような個人的な意味があった。それらの作業は老婦人に作業的存在としての安全を与え，彼女の社会への再統合を推し進めた。（訳：小田原 悦子）。

*訳注：Collective は，集合的な，共同の，共同体の，などの意味がある。集団（group）で行う集団作業と差異化し，集団や共同体がイメージを共有する作業という意味合いを含めて，ここでは集団的作業という言葉を用いた

Translated by Etsuko Odawara, Ph. D., OTR/L

Division of Occupational Therapy, School of Rehabilitation Sciences

Seirei Christopher University

Michael J. Lewis, Judith Knight & Veronica Ball(2010)

A Quantitative Analysis of Self Rated Health and Occupational Aspects of
Community-Dwelling Older Adults

Journal of Occupational Science, 17(1), pp 20-26

Key Words: Older Adults(高齢者), Health (健康) , Occupation (作業) , Religion (宗教) , Dwelling (住居)

地域在住の高齢者の健康自己評価と作業的側面における量的分析

本研究は、地域在住の高齢者における健康の自己評価と、退職前の作業・住居の種類・宗教との関わり、という変数との間の関係性を探る調査である。調整版の作業遂行歴のインタビューを用いて60歳以上の男女230名からデータが集められた。自己健康評価と年齢の負の相関、平屋より複数階ある家に住む人の自己健康感の高さ、健康と年功に即した退職前との正の相関などが有意な結果であった。また、分析により男性より女性がより有意に宗教的な関わりをもっている事が明らかになった。これらの結果は、過去に取得された生産的作業や余暇作業に新たなデータを加えるものである。退職者の増加する中、高齢者をケアする人や高齢者自身が、人生において年を取る事は価値があり、生産的で、満足の伴うものであることを保証する情報をできるだけもつことが重要である。(訳：近藤 知子)

Translated by Tomoko Kondo, PhD, OTR/L

Department of Occupational Therapy

Teikyo University of Science

Alejandra Aguilar, Christina Boerema & Jo Harrison(2010)

Meanings Attributed by Older Adults to Computer Use

Journal of Occupational Science, 17(1), 27-33.

Key Words: Older people (高齢者) , Computer use (コンピューターに使用) , Well-being (ウェルビーイング) , Meaning (意味)

高齢者がコンピューター使用に見いだす意味

最近の研究は、高齢者が毎日の行う作業に見いだす意味を追求して生きた。しかし、高齢層はあまり行わない作業であるとされるコンピュータの使用について焦点を当てたものはほんの限られたものにすぎない。高齢者がコンピューターを使う事に見いだす意味を理解するために、65歳以上でオーストラリア全土の様々な地域に在住する9人から質的データを収集した。グループはオンラインで集まり、10日を超えるセッションが2回行われた。データの分析は帰納的に行われ、現象学的に解釈された。意味と関連する以下のような5つの主となるテーマが表れた。それは、コントロールしているという感覚、日常生活の重要な一部分、脳を活性化し続ける、他人と関わる、そしてコンピューター使用からの個人的な利得である。研究結果は、コンピューター使用は、参加者にとって非常に高い価値と意味をもつ毎日繰り返される作業であることを示した。高齢者はコンピューターを使用することを、挑戦と報酬の両方であると報告した。この作業がウェルビーイング (well-being) *に寄与し、肯定的なアイデンティティを形成する役割を果たし、そして自尊心と自己概念を強めていることが明らかになった。コンピューター使用の価値は、退職や生活環境の変化という人生の移行期と共に、時間を経て変化していくことが発見された。本研究の結果は、コンピューターに基づく作業と加齢に関わる将来的な研究への示唆を提起している。(訳：西野 歩)

*訳注：Well-beingは幸福、福利、安寧などと訳されることが多いが、意味が伝わりにくいと印象をうけるため、ここではあえてカタカナ表記した。“良い状態で存在している”、“良質な存在という”というニュアンスが含まれる。

Translated by Ayumi Nishino, MSOT, OTR/L

Department of Occupational Therapy

Japanese School of Technology for Social Medicine

Kerr, A. & Ballinger, C. (2010)

Living with Chronic Lung Disease: An Occupational Perspective

Journal of Occupational Science, 17(1), 34-39.

Key Words: Occupational performance(作業遂行), Occupational adaptation (作業適応), Enabling occupation (作業の可能化), Change (変化), Everyday life (日常生活)

慢性肺疾患と共に生活する：作業的視点

慢性閉塞性肺疾患は、人が日常的な課題を遂行したり社会的ネットワークに参加したりする能力に多大な障壁をもたらす。作業科学研究領域では、これらの要素は、自己同一性及び健康とウェルビーイング (well-being) *に貢献することが、一般的に認められている。本論は、進行性の肺疾患をもつ人がどのように生活しているかを、作業的視点から提示したものである。呼吸リハビリテーションに参加している62歳以上の慢性肺疾患をもつ9名に対して、グラウンデッド・セオリーを用いた質的研究を実施した。結果は、慢性閉塞性肺疾患をもつ人は、従事している作業の変更や喪失を数多く経験していることを示した。彼らは従事する作業や、その作業の遂行方法を、場合によってはその行為を可能するために適応させながら選択する必要がある。また、彼らは、心にいただく期待感を再評価して、欲求不満や喪失感を処理し、そのような変化を受け入れる必要がある場合もある。この疾患が進行性であることを考えながら、彼らの生活の変化に及ぼす幾つかの要因について考察した。今後さらに理論的、縦断的研究が必要である。(訳：青山 真美)

*訳注：Well-beingは幸福，福利，安寧などと訳されることが多いが，意味が伝わりにくいと印象をうけるため，ここではあえてカタカナ表記した。“良い状態で存在している”，“良好な存在という”というニュアンスが含まれる。

Translated by Mami Aoyama, PhD, OTR/L
Division of Occupational Therapy
Department of Rehabilitation Sciences
Nishi Kyushu University

Hamilton, Anita & de Jonge, Desleigh (2010)

The Impact of Becoming a Father on Other Roles: An Ethnographic Study

Journal of Occupational Science, 17(1), 40-46

Key Words: Father (父親), Role (役割), Parent (親), Ethnography (エスノグラフィー)

父親になることが他の役割に及ぼす影響：エスノグラフィー研究

研究目的：父親になることへの移行と他の役割への影響を理解すること。方法：焦点を置いたエスノグラフィーを行うために、作業遂行歴面接改訂版(OPHI-II)と文献上重要とされていることがらを基盤とした半構造的面接のプロトコルが準備された。前年に初めて親になった4人のオーストラリア人の男性とそのパートナーのカップルがコンビニエントサンプルとして参加し、綿密なインタビューが行われた。インタビューは録音し、トランスクリプト(逐語録作成)し、カテゴリーごとに分類、統合し、新たなテーマ生成を行った。トライアングレーションとして、個々の独立した研究者によって、メンバーチェックとレビューを行った。結果：現れたテーマのいくつかは過去の文献に見られた結果の多くのも的一致していたが、いくつかの明白な違いもあった。例えば、これらの男性の作業役割は、彼らの最初の子供の誕生後、実質的に変化しており、仕事における役割の重要性も移行していた。現れたテーマは「父親になる」「役割の再交渉」「仕事役割」「家庭内役割」「レジャーの役割」「睡眠の不足」「夫婦の時間」「父親としての新しい役割の受け入れ」、そして、「父親という新しい作業役割を受け入れるための促進因子と阻害因子」であった。研究の限界：本研究は少数のコンビニエントサンプルからなる予備研究である。すべての参加者の子供は女の子で、かつ英国ヨーロッパ系だった。時系列データは集められていない。(訳：西方浩一)

Translated by Hirokazu Nishikata, M.S., OTR/L

Department of Occupational Therapy

Bunkyo Gakuin University

Linda H. Wilson(2010)

Occupational Consequences of Weight Loss Surgery: A Personal Reflection

Journal of Occupational Science, 17(1), 47-54.

Key words: Weight loss surgery (減量手術), Obesity (肥満), Occupation (作業), Occupational identity (作業的アイデンティティ)

減量手術の作業的な結果：個人的な省察

肥満に関連した健康障害へ対処するために減量手術が増加している。この論文では、胃バイパスを受けてから12ヶ月後の減量手術の作業的な結果を省察する。手術から1年経った日から6週間日記をつけ、作業的に変化した事項を記録した。分析では、作業的能力、作業のパターン、対人交流に関連した3種類の変化が認められた。失ったことと得たことにはそれぞれ肯定的な側面と否定的な側面の両方があり、作業選択と作業的アイデンティティが変化することがわかった。(訳：坂上真理)

Translated by Mari Sakaue, Ph.D., OTR/L
Department of Occupational Therapy
Sapporo Medical University

Laliberte rudman, Debbie (2010)

Occupational Possibilities

Journal of Occupational Science, 17(1), 55-59.

Key words: Theory(理論), Governmentality (統治性), Situatedness (位置づけ), Occupational possibilities (作業の可能性)

作業の可能性

今回の作業に関する用語 (Occupational terminology) のセクションは、著者が博士課程の研究を通して発展させてきた概念の概要を述べている。この論文を書くことにより著者はいくつかのことについて振り返る機会を得た。それは作業の可能性 (Occupational possibilities) という概念がどのように発展してきたかということ、そして個人や集団レベルで作業が形作られる際に、この概念構造(structure)が行為の力(agency)の間に生じるトランズアクションを検証する独特の視点 (lens) をどのように提供しているかということである。この概念は、作業に「備わった(situated)」性質に注意を払いつつ、理論的・方法的アプローチを探求している作業科学の研究体系の成長に適したものである：つまり、作業が社会のシステムや構造の中で、どのように形作られ、埋め込まれ、やりとりされ、そしてどのような役目を果たしているのかを問うているのである (Cutchin, Aldrich, Luc Ballaird, & Coppola, 2008; Dickie, Cutchin, & Humphry, 2006; Hocking, 2000; Phelan & Kinsella, 2009)。本論文では、作業の可能性の概念について述べた後に、その統治性的 (governmentality) 観点からの理論的根拠についてふれ、加えて、備えられた現象としての作業をさらに深く理解する上でのその潜在的な有用性を明らかにするような質問と例を挙げる。(訳：浅羽エリック・浅羽明恵)

Translated by Eric Asaba, PhD, OTR

Karolinska Institutet

and

Akie Asaba, M.H.Sc., OT